

# 平成27年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会会議録

日時 平成27年7月27日（月）午後2時～午後3時40分

場所 花巻市石鳥谷総合支所 1階 委員会室

出席委員 高橋信雄委員、関豊委員、熊谷常正委員、室野秀文委員、中村良幸委員  
(全委員出席)

報道関係者 2名

傍聴者 なし

事務局 花巻市教育委員会 佐藤勝教育長、市村律教育部長  
文化財課 千葉達哉文化財課長、酒井宗孝主幹兼課長補佐、村田豊隆埋蔵  
文化財係長、菊池賢上席主任

## 次 第

委嘱状交付

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員長及び副委員長の選任
- 4 報 告 花巻城跡保存整備に係る経過について
- 5 協 議 花巻城跡遺構等の調査保存について
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

会議内容の概要は、以下の通り。

(司会：酒井課長補佐) 本日はお忙しい中、お集まり頂きまして、まことにありがとうございます。私、花巻市教育委員会文化財課課長補佐の酒井と申します。まず会議に先立ちまして委員の皆様から教育長から委任状を交付いたしますので、大変申し訳ございません、前の方へお進み下さい。

～佐藤勝教育長から、委員各位へ委任状の交付～

(司会) 続きまして、本日出席しております教育委員会の事務局職員をご紹介します。

教育部長 市村 律 (いちむら おさむ)

文化財課 課長 千葉 達哉 (ちば たつや)

文化財課 課長補佐 酒井 宗孝 (さかい むねたか)

文化財課 埋蔵文化財係長 村田 豊隆 (むらた とよたか)

文化財課 上席主任兼学芸員 菊池 賢 (きくち さとし)

## 1 開会

(司会) ただいまより平成27年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を開会いたします。

## 2 教育長あいさつ

(司会) まず本市佐藤教育長よりごあいさつ申し上げます。

(佐藤教育長) 佐藤でございます。昨年からの職を拝命いたしました。いつもお世話になっております。本当に今日は暑いところ、そしてお忙しいところご出席頂きましてありがとうございます。

花巻城の状況、今までの経過につきましては、委員の皆様十分ご承知の事だと存じますが、花巻城につきましては、維新後の払い下げ・民有地化、そして市街地の一面を形成してあるという現実、それから面積的に500m四方ぐらいの非常に大きな規模で、高低差も大分ある、そして公有地も集中しているという、いわば街の中心部を形成している、そういった都市になっています。

これまで花巻城に関する調査を見ますと、平成になってからの「西御門」の復元、正式にはあそこがスタートだったと思います。西御門を復元する際の石垣を野面積みにしてあるとか、長屋跡であるとか、あの辺のところから始まりました。次には市第2庁舎を造る段で、また色々論議されたというところもあります。そして、昨年「谷村新興」でございますけれども、谷村新興の所に開発ということが入って、市民の方々のご意見や関心を集めたということでございます。谷村新興の跡地につきましては、当初

市の方で買い取りということも検討したわけでございますけれども、民有地の開発ということになり、今まだそれがどういった方向に進むのか具体的な所までは定まっておりますが、間違いなくそういった方向に向かうことになっているのではないかと思います。必要があれば文化財課全員総掛かりでの事前調査、あるいは試掘、ということも必要になってくるかとは思いますが。

そういった中で、今回二之丸の、現在花巻小学校の東隣に当たります武徳殿からさらに東側の私有地2,400㎡について、非常に大事な場所であるということで、市で取得させていただきました。まずは「南御蔵」の一部に掛かり、台所御門に至るルートということではありますが、そこについての調査をどうしていくか。それから、調査した後の保存についてどうしていくか、またその周辺部で今後指定を進め、あるいは保存しなければならないのはどこまでなのか、そういったことを考えますと、やはりこれまで文化財についての調査特にも城館のご経験あるいはご担当された方々のご指導・ご助言を頂かなければなかなか進めるのは難しいということで、今回当検討委員会を立ち上げた次第であります。委員会組織についてもこれまで様々な懇談会でありますとか、委員会を設置した経過もございますけれども、また新たな視点に立って花巻城の保存、あるいは調査、整備、そういった観点から専門的なご意見、ご助言を頂ければということで、この会をスタートしたいと思っております。

花巻城に限らず、市内には城館は沢山あるわけなのですけれども、そういった中でやはり花巻城というのが花巻の文化財の中では非常に大きなウェイトを占める、また関心も高い、さらに課題も多い、という状況でありますけれども、様々ご指導頂きながら一つずつでも、二つずつでも、少しずつでも何とか花巻城というものをしっかり調査し、保存すべきところは保存していく、そういったスタンスでおりますので、ご指導を賜ればと存じます。宜しく願いいたします。

### 3 委員長及び副委員長の選任

(千葉課長) それでは、次第3、委員長及び副委員長の選任となっております。互選されるまで、私の方で進行をさせていただきます。

委員長の互選につきましてお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(中村委員) 高橋信雄さんをお願いしたいと思います。

(異議なしの声)

(千葉課長) 高橋委員という声がありまして、異議なしという声もありましたので、委員長には高橋委員ということでございます。どうぞ宜しくお願いいたします。次に副委員長の互選をお願い致します。いかがでしょうか。

(中村委員) 熊谷さんを推薦いたします。

(異議なしの声)

(千葉課長) それでは、熊谷委員ということで、異議なしというお声も頂戴致しました。では副委員長に熊谷委員をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。それでは、選任されました委員長・副委員長からご挨拶をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

(高橋信雄委員長) 高橋でございますが、昔から知っている人たちばかりですが、一番年上だということですので、何とか委員長を務めさせていただきたいと思っております。

私も言ってみれば、花巻城は小学校一年生の時からずっと、言ってみれば60年以上の長いおつきあい、その中でいろんな事もありました。従来はどちらかと言いますと花巻城は保護するというよりも、困ったことが起きて、これをどう対処するかということでもずっとやられてきたような気がするのですが、先ほど教育長さんのお話を伺っていると、やはりもっと先を見据えて花巻城をどう今後活かしていくか、将来展望みたいなものも視野に入っているというふうに私自身感じました。そういった意味で緊急にここが壊されそうだからどうしようか、というよりも今後花巻城をどう活かしていくかというような面もあろうかと思っておりますので、委員の皆様方の協力を得ながら良い方向で、これを持っていければと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

(熊谷常正副委員長) 副委員長を拝命致しました熊谷でございます。花巻城というのは盛岡藩領の中における重要な拠点であるということも言うまでもありませんが、それ以上にやはり、先ほど教育長さんのお話の中にもありましたように、花巻市民にとっては特別な場であると、その場を将来に向かってどのように活用していくかというのが一つの使命だろうと思っております。幸いこの保存委員会には盛岡城そして九戸城と、整備に携わってこられた有力なメンバーをお迎えいたしましたので、ぜひ積極的なお話を受けて、きちんとした形で検討を進めて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(司会：千葉課長) ありがとうございます。それでは、これから4報告に入ります。ここからは要綱第4条第2項の規定によりまして、会議の議長を委員長にお願い致します。どうぞよろしくお願い致します。

#### 4 報告

(進行：高橋委員長) それでは会議に先立ちまして、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開とすることにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(高橋委員長) 異議なしということですので、それでは、本会議は公開といたします。それでは報告に入りたいと思いますが、「花巻城跡保存整備に係る経過について」お願いします。

(事務局から説明)

村田係長：資料No.3 「花巻城跡復元整備及び環境整備に係る事業等の経過について」

酒井補佐：資料No.4 「花巻城跡に係る発掘等調査の経過」

【質疑】

(高橋委員長) ただいま花巻城に係る環境整備の事業等の経過、ならびに花巻城に関わる発掘調査の経過について報告をいただきました。委員さんの中でご質問等ありませんでしょうか。

(熊谷副委員長) 平成12年度の提案書の骨子と言いましょうか、具体的にどんな提案を頂いたのか、ちょっと簡単に。平成6年のは、西御門の整備に係る計画だったと思いますから、具体的に花巻城の在り方についての提案はこの12年の提案書が最初になるはずですね。

(村田係長) 今のご質問の部分でございますが、花巻城跡復元整備懇談会の最終回におきまして提言という形でまとめられた部分でございます。要旨としましては大きく7点にわたる提案ということになっておりまして、項目では環境整備について、文化財調査について、案内説明板の設置について、史跡保存について、啓蒙活動について、史跡管理について、最後、整備体制についてという提案項目になっております。若干具体的な部分をご紹介させていただきますと、まず環境整備に関しましては、例えば保存整備を図るには具体的にはどう取り組むかが問題である、史跡としての価値を計画に盛り込むべ

きである、散策などくつろげるスペースを検討願いたい、などの環境整備に関わる部分の提案というところです。それから、文化財調査につきましては、城廓市有地で重要な未開発地の確認でありますとか、公有地化・発掘調査の推進でありますとか、発掘調査の優先箇所を示されたい、などの調査に関する部分の提案というところがございます。それから、案内説明板の設置につきましては、城跡にガイダンス施設など説明があれば学んで帰られるだろうというところですか、現地に模型・掲示版などがあった方が良く、という提案がございます。それから史跡保存につきましては、二之丸の土塁など遺構を象徴するものは残して欲しい、史跡の公有地化・三之丸外堀までの建築規制・館小路周辺的环境保全などのような提案がございます。それから啓蒙活動につきましては、現存遺構の修復保存、城跡整備に係る広報でのPRでありますとか、史跡巡りマップがあれば良いなどの提案がございます。それから史跡管理につきましてはパトロール等の管理体制の充実、センサーなどの投光器の設置を考えてはどうか、城跡が貴重であることから城全体としての植栽なども考えた方が良くなどという提案がございます。整備体制としましては建設サイドとの綿密な協議でありますとか、史跡用地の公有化が大切であるとか民有地に対する建築規制をどう扱っていくかが問題だというような提案等がございます。そういう部分が平成12年の最終の会議で提案としてまとめられたというところがございます。

(熊谷副委員長) 結構多岐に涉つての提言があったかと思いますが、その提言とですね、平成14年から始まる「こぶし公園」の整備というのは、どのように関連しているのでしょうか。この提言を具体化するものとして平成14年からの整備が行われたと解釈してよろしいのでしょうか。それとは別個に委員会を開催して整備計画を立ち上げていったというふうになるのでしょうか。

(村田係長) 環境整備推進委員会という部分に関しましては、基本的な考え方としましては前段の懇談会での提案を尊重した上で進めていくという考え方であったという記録がございます。その中で中心となったのは「こぶし公園」の整備ではございましたけれども、啓蒙活動につきましては、セミナーであったり、看板・説明板の設置なども含めて事業化をしてきているということですので、大きなテーマは公園整備という部分のウェイトはありましたが、基本的には懇談会での意見を踏まえながら推進委員会の中でご検討頂いたり、事業化をしてきたと考えてございます。

(高橋委員長) その他、ご質問はありますか。

(室野委員) 教えて頂きたいのですが、「こぶし公園」というのは10ページの図でいうとどの位置になりますか。

(村田係長) 現在は三之丸公園という名称でございますが、10ページの位置図では、17次の調査を行った黒い箇所を中心にしまして、やや南側の方に広がりがあるような形での公園というところでございます。

(室野委員) 観音寺の跡にかけてということでしょうか。

(酒井補佐) 観音寺までは掛かっておりません。

(高橋委員長) 調査の報告書は全部出ているのですか。

(村田係長) 9ページの「調査の経過」の平成25年度に行いました三之丸の部分につきましては、本年度の報告書の刊行ということで今作業を進めているというところですが、それ以前につきましては報告書が出来上がっております。

(高橋委員長) 何かご質問は。無ければ5番の協議に入らせていただきます。「花巻城跡遺構等の調査保存について」というところです。

## 5 協議

### (事務局から説明)

村田係長：資料No.5 「花巻城跡遺構等の調査保存について」

#### 1 調査保存予定の遺構等

- (1) 二之丸南御蔵付近 (資料No.6)
- (2) 三之丸武家屋敷 (城内伊藤家住宅)
- (3) 本丸御殿

#### 2 開発の対応

- (1) 三之丸新興製作所旧工場跡地

#### 3 (仮称) 花巻城跡保存計画の策定

### 【質疑】

(高橋委員長) ただいま「花巻城跡遺構等の調査保存について」ということ、それから開発の対応、それから3番として保存計画の策定ということで、ご説明いただきました。

1番の「調査保存予定の遺構等」(1) 二之丸南御蔵付近というところのことで、委

員の皆様のご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。これは今まで試掘も何も全くやってないのですね。

(佐藤教育長) 上物は一切建ったことが無いですね。

(酒井補佐) はい。

(熊谷副委員長) 南端に東御門から延びてきている土塁の痕跡が確認できるかもしれないのですが、それは、今のところは削平はされている、塀の内側、あそこまで土塁は…

(酒井補佐) 延びます。

(熊谷副委員長) もし土塁があるとすれば、先ほどの写真にあった断面からしてですね、構築時の面は確認できるものなのかどうか。室野さんどう見ました。ただ載せているだけなのか…

(室野委員) まだ裾が幾らか、何十cmか下がるのではないかと思います。

(熊谷副委員長) 図面上なり、見た感じでも、この部分と東御門の部分の土塁の様子がイメージとして連結出来るようになれば。

(佐藤教育長) その「版築」の一番最後(※注、土塁の下部)が、あれがどこまで…

(中村委員) 下まで掘りましたよね。

(菊池上席主任) 地山までは下げておらず、整地層と思われます。

(熊谷副委員長) 整地した上に盛土をしている。その整地層は確認出来る可能性がありますよね。

(関委員) 整地層の厚さは全然分かりませんか。厚さの調査はしてないのですか。

(菊池上席主任) 整地層の上面付近で掘削を止めている状態です。これ以上深くは、工事で掘削が無かったものですから。整地層ほぼ上面で止まった状態で、地山までは掘っていないという状況です。

(熊谷副委員長) 先ほどの説明ですと、一応2期か3期というか、2回か3回に涉って西側に向かって積み重ねている成長だということですがけれども、それに伴って整地層が西側の方に延びていっているというのでもない。やはりずっと整地した上に載せている、一気に造っている感じなんですかね。

(中村委員) 一番低い土塁が、かなり丁寧に造っているのですよ。

(熊谷副委員長) 土が全然違いますね。

(中村委員) こちら側(※注、西側)の二つは結構荒っぽく盛っています。最初の土塁の



部分だけは、かなり叩いて綺麗に、版築まではいかないけれども、結構上手く積んでいますが、その後はかなり雑に積んで、何か掘り上げたような土を上を被せたような。特に一番上なんかは、かなり大雑把です。

(高橋委員長) 時期的に、例えば鳥谷ヶ崎城だとかを想定出来るのかどうかですよ。それが最初一気に整地しているとなれば、また別ですしね。

(熊谷副委員長) 場所的にも、要するに「二之丸の戦い」に入ってくる南側の一番いい所ですよ。

(中村委員) 実際、天正18年の時に、ここから入ったという記録があるので、恐らくその当時からそれは…

(高橋委員長) 「鳥谷ヶ崎城」って意外と小さいのかもしれない。

(中村委員) だから、最初のその一番小さいのが、稗貫氏時代の土塁じゃないかと思ったのですけれども。積み方が随分丁寧だったので。

(熊谷副委員長) それで、版築しているとか、何とかではない。

(中村委員) 若干見ると「積み重ね」が見えるので、それほど版築のような丁寧さではないけれども、ある程度積んではいますね。他の二つと比べて全然違うので。

(室野委員) あの白っぽいのは粘土のような土ですか？

(中村委員) 粘土のようですよ。だから、何層かに涉って積んでいるのが分かるのですが、片方はもう、かなり両側の二つは一緒のような土の盛り方をしている。

(熊谷副委員長) 真ん中のも、上に黒色土のラインが一枚入るから、間隔はあいている。

(中村委員) 少しあいているのだと思いますよ。

(室野委員) あと問題は、下の土塁の土よりも下にある整地土が、これが何時の段階の整地層かということで、当然鳥谷ヶ崎城の段階でも旧地形を相当弄って造成しているでしょうし、また次の花巻城になる時にも大分弄っていると思いますので、いま中村さんが仰ったように、一番左側(※注、東側)のものが鳥谷ヶ崎城時代の土塁だとすると、その整地層の更に下というのは、また何段階か更にあるのかですね。そういった事の比較が…

(熊谷副委員長) それで北側に、今回の公有地化した所に延びてくれば、その下である程度鳥谷ヶ崎段階のものが確認出来ればいいかなと。

(室野委員) そうですね。

(関委員) この調査で、遺物は全く出ていないのですか？

(菊池上席主任) 遺物は出ておりません。

(熊谷副委員長) これだけしか掘っていませんか？

(中村委員) そういことです。結局、側溝が見えますよね、あの間を掘っているの、側溝があるのは前の道路の部分。

(関委員) これは、終わった後どういう風に処理したのですか。芝生とか貼ったのですか？

(中村委員) ここは道路の拡張になったんですよ。工事の時に崩れ防止で芝は貼ったかもしれません。

(熊谷副委員長) 結構古い段階の遺構が残っている可能性があることは、まず一つですよ。ね。

(中村委員) 道路から下がっている部分があるので、この向かい側の今度取得した土地の部分も下げれば、この下の部分も出てくる、土塁の部分が出てくると思います。恐らく削っていないので。

(熊谷副委員長) あとはこれまでの本丸部分での調査とか、これまでの調査状況を見ると、遺構検出面まではかなり浅くて、結構厳しいというか、一枚剥げば、もう遺構が出てくるような感じだから、逆に掘立以外の保存状態は悪いのではないかと。例えば「南御蔵」の基礎工事みたいなものが上手く出てくるかどうか。これまでですと花巻城内の建物については掘立が原則だということ…

(室野委員) 西御門は礎石でしたよね。

(千葉課長) (東御門跡の) 塀の外には礎石と思われる石が並んでいます。

(中村委員) 寄せ集められて動いたとか掘り出されて。道路を造る時とか、多分谷村さんの入り口の道を整備する時。

(熊谷副委員長) 礎石の可能性が考えられますね。

(高橋委員長) これから調査すれば分かる事でしょうけれども、やはり私、気になるのは今まで鳥谷ヶ崎城の遺構としては、今までほとんど何も見つかってきていない。遺物は出ているのに、二之丸では相当なものが出てるわけだから、ここで鳥谷ヶ崎城のものか、花巻城のものが上手く分かるような状態であれば、随分違うのではないかなということ。期待とすればそうあって欲しいなと思います。なにか調査方法とか、アドバイスがあれば意見を出して頂きたいと思います。

(室野委員) 土蔵であれば、相当基礎をしっかりと造るはずなので、柱の位置までは取ってしまうとしてもですね、下の基礎の地業の部分は、掘り込みでかなり建物の輪郭ぐらいは掴めるのではないかなと思います。

(熊谷副委員長) それで、例えば花巻城段階のものだとするならば、それによって被われている下の遺構はそれよりも古いというふうに捉えられれば、鳥谷ヶ崎城の可能性は高くなる。要するに、遺構の重複関係できちんとそれが確認出来るかもしれません。

(中村委員) 調べるとすれば、この南御蔵の赤い敷地内に出ている出っ張りの部分、蔵の出っ張りの部分を最初に確認するか、あるいは東御門の土塁の…。

(熊谷副委員長) ポイントとすれば、その東御門に取り付くような土塁痕跡を確認する。それから、南御蔵を確認する。もう一つは、「通路」と言われる、これが出てくるかどうかですね。

(千葉課長) ここは(塀を)壊さないと入れない。上手く壊さないと、下(の遺構)までいってしまうというところがありますね。こちらの横(※注、東側)は、隣の民地からしか入れないので。こちらは塀が無いですけども入れない。こちら側(※注、西側)も塀がずっとあります。武徳殿側ですね。ですから道路から入るとするのは難しい。

(熊谷副委員長) 武徳殿側の方は、全部塞がっていましたか。

(千葉課長) そうです。ただ、駐輪場がありますので。そちらも壊さなければならなくなる。

(中村委員) 一番向かって左側の方の武徳殿との境のあたりを徐々に、こっち側に抜けてくるしかない？

(千葉課長) 本当は道路から真っ直ぐ行けば、機械も入りやすい。

(中村委員) そう。ただ、そうすれば土塁のところ当たる。

(佐藤教育長) 土塁調査するには、やっぱりミラーのあたりにいきたいですね。

(佐藤教育長) 道路と中のレベルっていうのはまだ分からない？

(酒井補佐) 若干中の方が高いように(見えます)。

(熊谷副委員長) 池とか、そういうのは無かったですね？

(酒井補佐) ありませんでした。

(熊谷副委員長) 畑だったものね、昔の地図で。

(酒井補佐) 昭和20年代ですと、畑になっています。ここに住んでいた子が(私と)同級生だったので聞きました。池とか建物は、この部分は無かったと。一面綺麗な芝生とし

て。お母様が「暗渠が入っているかもしれないけれど、そんなに大きな改良はしていないよ」ということでした。

(佐藤教育長) 桑畑だったのは、谷村邸の方？昔、桑畑だった…。

(中村委員) 梅原先生（※注、梅原廉先生）は、「段ついてました」と言っていました。その段が、どこの段のどの辺についてたのかは分からないけれど、今の谷村邸の所との段なのか、武徳殿の辺りに段がついていたという話しもしていて。「一段低くなったのに盛土して平らにしたんだよ」という言い方もしていました。それがどういう細工なのか、さっぱり分からないので。

(熊谷副委員長) 枡形に取り付く遺構はあるのですか？

(室野委員) 土塁の裾の側溝とかですね。溝はある場合は、結構あります。

(熊谷副委員長) そうですか。溝で確認出来る可能性がある。

(中村委員) 下端くらいは、土塁の下端くらいは出る。

(熊谷副委員長) あと、ある程度遺構確認するには、面積を掘らないとダメですよ。壺掘りではちょっと難しい。

(室野委員) 壺掘りは、難しいですね。

(熊谷副委員長) 例えば調査計画で、2カ年に渡ってやるのであれば、南半分とか、北半分、それ位の感覚で調査を進めていくべきなのか、あるいは初年度で剥いでしまって、しっかりと確認しながら下げていくという方法をとった方がいいのか。今、測量図面をきちんと録れば、北半分・南半分くらいでもやってもいいのか、あるいは想定される遺構からすると東半分・西半分みたいな方がいいのかですね。最初はやはり“バン”と開けた方がいいと思うのですよ。よくやるのが、コツコツ掘って分からないっていうのが一番悪いパターンで。

(中村委員) 蔵の部分とその土塁の部分だけは、やっぱり開けないと。それから、あたりをつけて、もし下がありそうだったら、こっち側の東かたの方で残るか…。

(室野委員) 北東側の方を土置き場に使って「L字」に掘ったらどうですか。

(関委員) 2カ年のスパンというのは、決まっている訳では…？

(酒井補佐) ではありません。

(関委員) 調査体制とかは大丈夫ですか。

(酒井補佐) はい。総合文化財センターと、行く行くは博物館でも、学術としてやって貰

えればいいなと思いますが、まだそこまでは…。

(千葉課長) 予算的な部分も、まだこれからです。

(関委員) 仮に2ヵ年として、結構きつそうです。

(熊谷副委員長) これまでの調査の様子をみると、個人住宅とか、市道拡幅とかがあって、100㎡に満たない。それはやはりちょっとキツイと思うので。やはりある程度面積を確保して遺構検出ができる位の面積でやらないと。これ3つのブロック、4つのブロックに分けたら多分わからないと思いますよね。たとえ少なくとも2年かけて全掘できるような。要するに、確認調査でいいわけ。

(中村委員) 上の、いわゆるその近世の面を確認するのだったらいいけれども…

(熊谷副委員長) 鳥谷ヶ崎はその次の話。例えば初年度である程度確認して、これで下にありそうだというのであれば、翌年鳥谷ヶ崎を狙うという手はありますよね。

(高橋委員長) 二兎を追うというわけではないにしても、頭の中には基本的には鳥谷ヶ崎城というのを意識しつつ、まず花巻城の東御門との関係、土塁との関係と、南御蔵の遺構確認というのを重点に置いた出来るだけ広範囲の調査をやるという。もちろん全部掘り上げるとかではなくて、上面だけでも。この構造、これがぴったり合ってくれば、今後どう調査していくか、また展開が違ってくると思うので。そういうところを狙って、ぜひいいしっかりした計画も立てなきゃだめでしょうし。

この詳細な地図の作成はどう考えていますか。

(酒井補佐) (地図は) 部分的にしかございません。本丸の整備の時に録りました、本丸跡の復元図面はございますが、二之丸までの図面はまだございません。

(高橋委員長) そうすると調査が優先なのか、図面が最初なのかという話しにもなるが…。

(佐藤教育長) まだ全体、花巻城全体の全体測量っていうのは無いです。

(高橋委員長) 将来的に花巻城をどうするかということを考えて、金かかってもそれが必要…。

(熊谷副委員長) どこまで、どの範囲まで作るかというのはあると思います。

(高橋委員長) それに出来れば壊されてしまったものがどの程度それに盛り込めるかというところまで是非考えて。

1番のところでは色々ご意見頂きましたけれども、先ほど方向性みたいなものは出てきましたので、まず南御蔵付近を中心とするものと、あとは東御門を土塁も含めた確認を

やるということで、是非これをお願いしたいと思います。

それでは（２）三之丸の武家屋敷、城内伊藤家住宅について、ご意見を頂きたいと思  
います。

（熊谷副委員長）（館小路の）小路全体の景観というランドスケープって言うんですかね、  
景観そのものをどうやっていくか…。

（千葉課長）あそこは、ほとんど民地ですので、官で持っている所は、（旧）法務局の茶色  
い建物、大きな建物になっていますので。あとは公園の所まで官の敷地はありません。  
「景観を大きく出して」というのであれば、民地でありますので非常に厳しいのかなと  
いう感じをしております。

（熊谷副委員長）あの辺、何かこう昔の雰囲気がいい。

（千葉課長）２棟、ちょうど向かいあわせに２棟残っているという形ですね。

（中村委員）区画は、民地ではあっても大体分かるんですよね。ただ、荒れ果てているだ  
けで…。

（熊谷副委員長）そうすると、今残っている所を史跡指定とか、あるいは樹木を含めた保  
護の手当てがとれるような、敷地全体と建造物をやれるような形のほうがいいのではな  
いかなと。立木とか敷地全体を残すということからすると、建造物（だけ）でやってい  
けば、かえって大変だと思うので。

それが、将来的に花巻城の指定問題と絡んだ時に、緊急性があるという事からすると敷  
地そのものを残して置くという形も…。

（高橋委員長）荒れ放題だから、「ここ史跡だ」って言っても、史跡っていうのはこういう  
ものかって言われそうな気が…、あの荒れ様は。

（熊谷副委員長）だから、建造物指定だけだとちょっと…。あの雰囲気、向かい合うあの  
雰囲気が…。

（室野委員）報告書を読ませて頂きましたが、敷地境の所が土塁状になって残っている所  
があると書いてありましたが、そういった遺構が大分顕著にあるのでしょうか。

（酒井補佐）特に確認できません。

（室野委員）何というお宅だったかは、はっきり記憶していないのですが、確か報告書の中  
でそういう記述があったように記憶しているのですが。

(中村委員) 井戸を掘っていた所(注、旧三鬼邸)の、横の隣の家との境に土塁みたいなのはなかった?

(室野委員) 土塁という大掛かりなものじゃなかったとしても、簡単な土手状の地境とかですね、そういったものがもし残っているのであれば、それでやっぱり大事な要素だと思います。直接関わるかどうかは分かりませんが、三之丸の新庁舎を造る所で、南北方向に溝が3・4本出ていますよね。中には古いものもあるようですが、それらを併せて考えていくと、この館小路という所の一画の変遷も分かると思います。今、地表面で分かるものは遡っても明治維新時のものでしょうけど。

(熊谷副委員長) 館小路地域の、例えば庭園調査とか、屋敷調査とかはやっていますか?

(中村委員) 南方の方は、ほぼ荒地状態になっていて、北側の方が新しい家ですよ。

(佐藤教育長) 庭園だとすると、松川さんの所が…。

(酒井補佐) 伊藤さんの方は軽便鉄道で截られていますので。

(室野委員) そういった、地表の地境などがもし追えるのであれば、熊谷先生がおっしゃったような、史跡という形で土地全体を残していけるような方策が組めれば一番いいのかなと…。

(千葉課長) 伊藤家の所は、地境っていうのは分かりません。測量しないと分からない状況です。

(高橋委員長) これから検討していただければ、今ご指摘あったのを踏まえて今後注意して貰えば、意外と館小路の昔の復元という、調査とは別に何らかの痕跡が残っている可能性がありますので、ぜひ調べていただければと思います。

それでは(3)の本丸御殿についてご意見を頂きたいと思います。

(熊谷副委員長) さきほどの写真の中にあった、野面の石垣、ちょうど西御門の西側の堀に掛かる石垣ですが、あの裏込めが出ているんですけども…室野さん、これ見て頂いてどうですか。膨らみ具合とか。

(室野委員) いえ、これはあまり膨らんでいないですね。

(熊谷副委員長) 膨らんでないですよ。状態はいいですよ。

(室野委員) 上の方に行ってずれている石が多少ありますけれども、ほぼ元の勾配を保っているように見受けられます。

(熊谷副委員長) すると石垣の状態は、それほど心配する必要は無い。本丸の南側の入口の所の、もうちょっと綺麗に裏込め石みたいなのが出ていたけれども、もうちょっと綺麗に出すのもいいかなと。

(室野委員) 台所門の所ですか。絵図では石垣が描いてありますが、多分根石くらいは残っているのではないかと思います。

(中村委員) 石は、出ているんですよ。結構、崩れたり散らばったりしてはいるけれども、若干見えますから。

(熊谷副委員長) この石垣みんな同じ時期に造られたものですか。

(室野委員) 何とも言えませんが、西御門付近のものは、一気に造っている。

(熊谷副委員長) 古い時期？

(室野委員) ただ、隅石にちょっと切石があったので、多少後の改修を受けている可能性はあります。ただ、基本的には多分、慶長年間ぐらいの石垣だと思いますけれども。

(高橋委員長) 今の段階ではすぐに本丸に手をかけるということではないですね。

(熊谷副委員長) いずれ本丸を護るための、例えば、現状で石垣が崩れたり、土墨それから堀の斜面が崩落したりするような危険性がある所は、あまり無いと見ていいですかね。

(酒井補佐) はい、今すぐ危険であるという所はございません。

(高橋委員長) 桜植える、植えないというのは…？

(酒井補佐) はい。植えませんでした。鳥谷ヶ崎公園の下の所に植えていただきましたので。

(高橋委員長) それでは、2番の開発対応。先ほども新興製作所の跡の話が出て、発掘届に基づく対応ということで。ただ、(開発の状況が) 今分からないという待機状態のようですが。

(熊谷副委員長) ただこの部分は、さっきの話の中で13世紀のものが出ている。逆に言えば、その東南の突端部っていうのはやはり一番古い頃のものとして、危ない所じゃないかなと思います。だから、そうした感覚で調査を組んでいかないと。

(中村委員) 新興の所歩きましたが、地下道が造られていて、なかなか複雑な。ちょうど14(ページ)の地図を見ると、「新興製作所」の建物の上にも、もう一つ建物がありますよね。この上の「84」と書かれたコンターの上の部分は、全然手をつけていないのですの



で、この部分は綺麗に残っていると思います。あとは、アスファルトで舗装しているので、どの辺まで掘削して舗装しているのかがよく分からないのです。ただ、この細長い、「新興製作所」と書かれた上の建物の所は、2・3m下げてから建物を建てているので、ここは削られているかもしれませんが。そのアスファルト舗装した部分がどれぐらいの掘削でやられているのかが分からないので、その部分が残っているとすれば可能性はあります。

(熊谷副委員長) この部分の試掘のデータってのは、当然無いんですよね。

(中村委員) 無いですよ、全く。

(熊谷副委員長) 全く残ってない可能性もあるのですかね？

(中村委員) 手がついてないのは、この「84」のラインから上の所、この部分はほとんどは今、緑地になっていて…。

(関委員) 面積的には、どれくらいですか？

(中村委員) このアスファルトの部分も、それほど段差が無いので、そんなに削ってなくて。昔のアスファルト舗装であれば、下の遺構にいつてない可能性があるんで、それはちょっと分からないですね。一回剥いでみないと。

(熊谷副委員長) 絵図面によれば、その三之丸のところの土塁、土塁状…鳥谷ヶ崎神社の周りを取り囲むような形で、その柵列みたいなのが廻ってますよね。こういった痕跡・遺構がこれまでに確認できていますか。

(中村委員) 私が気にしているのは、この突端部は、中世城館などでもものすごくあるんですよ、わざと造る。これはもう自然地形なのかもしれませんが、わざとこういうふうな造り方をする例が結構あるので。

(熊谷副委員長) これは多分、自然地形利用したこの形態からすれば、もっと古いという…。12世紀まで、11世紀までとか。

(室野委員) 最初からこういう大きな城廓になったとは思えないので、小型の城館を最初にどこへ持ってくるかと考えたときには、この三之丸の先端が一番手っ取り早い場所なんです。ですから、おっしゃる通り、この古い時代の城館の遺構が眠っている可能性は多分にあると思いますし、また、そういったものに伴う浅い遺構が飛ばされてしまう可能性があるんですが。例えば堀とか井戸とか、あるいは地下式の室みたいなもの、そういった深く掘り込まれたものであれば、この新興製作所の構内であっても残っている可

能性は多分にあると思いますので、この建物を解体する時にもある程度用心して、上手に基礎を抜くようにしないと、間に残っているところを壊してしまう場合があると思います。その辺は用心が必要かなと思います。

(高橋委員長) これは届けが出てからということになるでしょうが、いま室野さんから出たように、単純に必ずしも壊されてしまったという前提でやるのではなくて、建物の解体も含めて、慎重に対応して頂きたいと思います。

それから、次の3番目。保存計画の策定について何かご質問等はお有りでしょうか。

(熊谷副委員長) 花巻の城下町絵図みたいなのはありますか。この絵図(※注、資料15ページ)の範囲はどこからどこまで描いてあるのですか。

(酒井補佐) 豊沢川から四日町まで描いています。

(熊谷副委員長) いわゆる花巻城下の中で、どう位置しているかということ。例えばいわゆる城域と呼ばれているのが、堀で囲まれた範囲に延びる可能性がありますよね。郭というか、その遠郭みたいな意識であれば。惣構みたいな感覚からするとどうだろう…。やはり、この堀に囲まれたこの本体部分だけではなく、花巻の街全体の中でどう位置付けられるのか、自然地形も含めてですね。そうしたのが分かるような形で。有体に言えば、花巻城は決して残りの良い城とは言えない訳ですから、逆に花巻にとって花巻城を中心にする街づくりとか、花巻城から見た花巻の街、あるいは花巻の北上川流域、あるいは豊沢川沿いから見る花巻城の景観とか、そうしたものを基軸に置いた今後の計画、花巻城に関する保存、あるいは調査・整備の基本的な部分についてはこれまでも議論されてきた訳ですから、もうちょっと違う視点で、21世紀の視点を盛り込めないかと思うのですが。

(高橋委員長) そうですね。基本的にあの、今まで堀を埋めて市役所を建てたりとか色々あった訳ですけども、やはり城あつての花巻の街づくりというところからすれば、堀に囲まれた部分だけではなくて、その周辺部も含めて、この城と関連して花巻の街が造られたという、非常に大きな視点から、捉え方として調査・保存、それに加え活用というようなことの中では、あくまでも堀に囲まれた城というイメージだけではなくて、花巻城を中心とした花巻の街づくりというような大きな視点を持って取り組むという、そういう保存計画に、出来ればして頂きたいと。こんなことだと思います。

よろしいでしょうか。第1回目ですし、皆さん花巻城に詳しい人たちですので。花巻市の方で非常に重要な区域を取得したということで、もう一度この花巻城をきちっとした形で見直そうということですので、私たちも出来るだけ調査ないし今後の保存に関わる事について協力していきたいというふうに思っております。協議のほうは、これで終わらせてもらってよろしいでしょうか。ということで、あとは、そちらのほうにお願いしたいと思います。

## 6 その他

(千葉課長) その他につきましては、当文化財課の方で用意している項目はございません。皆さんの方で何かあれば。

(熊谷副委員長) 次回できましたならば、委員長が最後にまとめられた今後の保存計画を議論する際に、これまでの経緯の提案のダイジェスト版ですとか、あるいはこれまで花巻の方で取り組まれて文書化したようなデータをお示し頂ければ。やはりこれまでの長い蓄積の検討がある訳ですから、その上に立っていきたいと思っていますので、是非お願いします。

(関委員) 出来れば委員会前にそういうのを郵送して頂ければ、多分時間のロスが大分違うかもしれません。

## 7 閉会

(司会) 長い時間ありがとうございました。それでは、以上をもちまして平成27年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。